

2008年度連結決算と2009年度連結業績見通し

2009年6月26日
(株)メタルワン

損益計算書

(単位:億円)	2008年度実績 (2008年4月～2009年3月)		2007年度実績 (2007年1月～2008年3月の15ヶ月間)			
	連結	単体	連結	増減	単体	増減
売上高	33,316	16,605	35,527	2,211	21,063	4,458
総利益 (総利益率)	1,502 (4.5%)	407 (2.5%)	1,705 (4.8%)	203	527 (2.5%)	120
営業費	994	275	1,038	44	337	62
貸倒費用	43	9	10	33	1	8
暖簾償却	11		8	3		
営業利益	453	123	649	196	189	66
受取利息	12	16	13	1	11	5
支払利息	68	26	75	7	22	4
利息収支	56	10	63	7	11	1
受取配当金	26	101	35	9	175	74
その他営業外収益	39	11	31	8	3	8
その他営業外費用	40	27	49	9	37	10
持分法利益	62		58	4		
経常利益	484	197	661	177	319	122
特別利益	33	15	53	20	37	22
特別損失	96	81	15	81	14	67
税引前利益	421	130	699	278	342	212
法人税等	188	30	266	78	87	57
少数株主利益	27		42	15		
当期純利益	206	100	391	185	255	155

基礎収益

528

689

161

基礎収益=営業利益(貸倒費用を除く)+利息収支+受取配当金+持分法による投資損益

() 損益計算書の実績数値について

前期より決算期の変更(12月31日 3月31日)を行なった事により、当連結会計期間(平成20年4月～平成21年3月)と前連結会計期間(平成19年1月～平成20年3月)は、対象期間が異なります。業績比較の際には、ご留意下さい。

連結貸借対照表

(単位:億円)	2009年3月末		2009年3月末		
	2008年3月末	2008年3月末	2008年3月末	2008年3月末	
流動資産	8,149	1,379	流動負債	6,807	1,353
現金及び預金	405	52	取引債務	3,368	1,297
取引債権	5,545	1,772	短期借入金	3,105	10
棚卸資産	1,959	317	その他の流動負債	334	47
その他の流動資産	240	24	固定負債	995	67
			長期借入金	809	81
			その他の固定負債	186	148
固定資産	2,434	467	負債合計	7,802	1,420
有形・無形固定資産	1,234	50	資本金・資本剰余金	1,500	0
投資その他の資産	1,200	517	利益剰余金	1,028	26
			評価・換算差額等	71	450
			(少数株主持分を除く純資産計)	2,457	425
			少数株主持分	324	1
			純資産合計	2,781	425
資産合計	10,583	1,846	負債及び純資産合計	10,583	1,846

連結対象会社数

	子会社	関連会社	連結対象計
事業投資先	104(+3)	53(±0)	157(+3)
国内・海外法人	19(+1)		19(+1)
合計	123(+4)	53(±0)	176(+4)

(注)・カッコ内は前年度末からの増減
・孫会社を除く連結対象子会社は77社。

連結財務指標

	2009年3月末	2008年3月末
株主資本比率	23.2%	23.2%
D/E レシオ	1.41	1.20

2008年度 連結決算の概要

【2008年度の概況】

当期の世界経済においては、米国のサブプライムローン問題の拡大が懸念されたものの、それ以上に成長著しい新興国の需要が下支えとなり、上期は前期からの好景気を継続していたが、昨秋以降、米国発金融危機の影響が日を追って深刻なものとなり、株価や商品市況は急落し、為替変動の影響による混乱が世界中へと広がった。これにより、企業の設備投資や個人の消費が大幅に冷え込む等、実体経済への影響が著しく拡大した。わが国経済においても、企業設備投資の減少や生産活動の縮小により景気が減速し、雇用情勢にも深刻な影響が及ぶ等、状況は日々悪化し、鉄鋼製品を使用する各需要分野においても、過去に例を見ない程の急激、且つ大幅な需要減退に直面した。

このような事業環境において、当社グループは第二次中期経営計画(2006～2008年)の最終年度を迎え、第二次中期経営計画で掲げたバリューチェーン戦略では、コイルセンターの再編、取引直列化や新工場立上げによる機能強化、また、海外建機バリューチェーン構築等を実行し、グループ経営戦略においては、メタルワンフォーラムや経営塾によるグループ各社の人材育成・交流を推進した。

こうした中、上期は国内建材関係や自動車、造船、建機等の製造業向け取引により、業績は好調に推移したが、下期は世界同時不況により需要は激減し、鋼材市況も急落したことで、大幅な収益減を余儀なくされた。更に、株式の減損処理等の影響も加わり、当年度の当社グループ連結業績は、売上高3兆3,316億円、経常利益484億円、連結純利益206億円と、前年度実績を下回る結果となった。

【経営成績】

1. 売上高、総利益

上期においては、前年度に引続き、厚板や建材、輸出に牽引された自動車関連等の国内取引を中心として全体的に好調に推移したが、下期に入ると世界同時不況の影響を受け、一転して急速に減速し、全体的に低調に推移した。この結果、売上高は、通期では、前年度比2,211億円減少の3兆3,316億円となった。総利益も下期は総じて低調に推移したものの、上期までが全体として好調に推移していたことから、通期では1,502億円となった。

2. 貸倒費用

貸倒費用は、経済環境悪化の影響を受け大幅に増加し、43億円となった。

3. 特別損失

特別損失は、上場有価証券の減損などにより96億円となった。

4. 取引種別・対面業種別の取引状況

取引種別では、売上高は国内が2兆4,698億円と全体の74%、次いで海外が4,283億円と13%、輸出が4,002億円と12%となった。対面業種別売上高は、自動車、建設、及び流通向けで50%超となっており、電機、産機等が続いている。

【財政状態(2009年3月末)】

1. 総資産、株主資本

事業環境悪化を受けた鉄鋼製品の需要減退により取引債権が減少し、また株価の下落により上場有価証券の評価損益が目減りしたことから、2009年3月末における総資産は前年度末(2008年3月末)比1,846億円減少の1兆583億円となった。販売が低調であることを受けて在庫水準が高まっているものの、総資産の内訳は従来同様、流動資産が約8割を占めており、前年度に引続き流動性の高い財務構造を維持している。

一方、少数株主を除く純資産は、連結剰余金の増加があったものの、有価証券評価差額金の目減りなどにより、前年度比425億円減少の2,457億円となった。但し、株主資本比率は23.2%と前年度末と同水準となっており、財務の健全性を引き続き維持している。

2. 有利子負債

足元の低調な鉄鋼需要を反映して取引債権債務残高は全体的に減少しているものの、在庫水準の高止まりなどから有利子負債は前年度末比71億円増加し3,914億円となった。

【関係会社の状況】

2008年度においては、国内ではステンレス厚鋼板を中心に条鋼、線材の加工販売事業を営む株式会社西鋼の株式取得・子会社化を行った一方、海外では、重要戦略地域と位置づけるインドに内販・輸出入機能を有するメタルワンインドを設立・営業開始し、事業拡大を目指すなど、グループでのバリューチェーンの強化を図っている。

2009年度 連結業績見通し

2009年度については、2008年度下期以降の低調な鉄鋼需要が継続し、引続き厳しい経営環境が続くものと予想している。このような状況では、市場の先行きを予測することは困難であり、たとえ予測しても不確かなものになる可能性が高い。本年7月以降になれば製造業での在庫調整も進み、粗鋼生産の予測も確度をもって推定することが可能になると思われる。従って、通期業績見通しについては、上期終了後に改めて策定することとしている。